

## 博士後期課程への進学理由と 博士後期課程学生支援プロジェクトの 支援を受けてよかったこと



理学研究科  
数理学専攻  
秋山 梨佳  
(2023年3月修了)

博士前期課程1年の頃、もう少し今の研究を続けたいと思い、博士後期課程への進学を決めました。その後、自身の視野を広げることができたらと思い博士後期課程学生支援プロジェクトに応募しました。本プロジェクトで印象に残っているのは、年に一度の成果報告会です。この経験で得た、専門の内容を聴衆に合わせて表現を変えるという技術は、幅広い場面で生かすことのできるスキルだと、就職した今痛感しています。現在は企業で研究員として働いています。新しい研究課題と出会ったとき前向きに取り組めているのも、本プロジェクトで出会えた様々な研究者の方から研究の話を楽しく、熱意をもって教えていただけたおかげと、感謝しています。



都市環境科学研究科  
建築学域  
楠 拓也  
(2024年3月修了)

公共の福祉に貢献したいと考えていた博士前期課程時代に、教育と研究の両輪から社会還元を行う教育研究職が魅力的に映り、指導教員に頼み込んで博士後期課程に進学しました。博士後期課程学生支援プロジェクトに採用されて良かったことは、他分野への研究発表の機会を頂けたことです。他分野の同級生や大学教職員、高校生への研究発表の経験を通して、自身の研究の有用性を多視座から意識して伝える技術を涵養できました。現在、高専の教員として、教育と研究に取り組んでいます。プロジェクトでの経験を活かし、多視座から社会還元できるよう邁進したいと思います。



理学研究科  
化学専攻  
松山 知樹  
(2024年3月修了)

“ゼロイチ”ができる人材になるため博士後期課程に進学しました。前期課程で習得した知識や技術を基に、後期課程では研究をさらに深く掘り下げ、課題を発見して解決することで、新しい価値を創出する力を養えると考えました。博士後期課程学生支援プロジェクトに採用されて、文書作成や英語プレゼンテーションなどのセミナーに参加する機会を得たことで、学振の申請書や国際学会での発表で自身の研究を効果的に説明する能力が向上しました。また外部メンターである企業の研究者や技術者の方々との面談を通じて、会社での研究やプロジェクトの進め方について貴重な学びを得ることができました。



理学研究科  
数理学専攻  
築島 瞬  
(2024年3月修了)

学部時代から専攻してきた確率論をさらに深く研究したいという思いから、博士後期課程に進学しました。進学時のビジョンとして、修了後は数学の専門性を活かして企業の研究所で働きたいと考えていました。そのため、支援事業を通じて企業や官庁などで活躍されている博士人材の方々のお話を伺えたことは、キャリアパスを描く上での重要なヒントになりました。また、リトリートなどのイベントで他分野の博士後期課程学生と交流できたことも大きな経験でした。研究内容の紹介だけでなく、博士後期課程特有の悩みを共有することで、今後も続くであろう良いつながりを構築することができました。



人文科学研究科  
人間科学専攻  
心理学分野  
齋藤 岳人  
(2024年3月  
プロジェクト修了)

様々な書体の中で最適なものを提案する「書体のソムリエ」なるシステムを作りたいと思い、システムを導入するために必要な技能やデータを取得するために博士後期課程に進学しました。その中で専門外の方の意見も伺いたいと思い、博士後期課程学生支援プロジェクトに参加しました。プロジェクト期間中に様々な企画に参加しましたが、特に印象に残っているのは高校生向けの出前講義を行ったことです。出前講義を通して、自身の研究の独自性や魅力について相手にわかりやすく伝えるスキルが身に付きました。これは、その後の研究活動でも大いに役立っています。

## 博士人材支援室

博士人材支援室は、博士人材への経済的支援と  
キャリア支援を行うことを目的とし、以下の取り組みを行っています。

1. 本学大学院改革に関すること
2. 文科省等の大学院教育・研究にかかる補助金の獲得戦略に関すること
3. 博士後期課程学生への経済的支援施策・寄付金の獲得戦略に関すること
4. 博士後期課程学生のキャリア開発・トランスファラブルスキル育成戦略に関すること

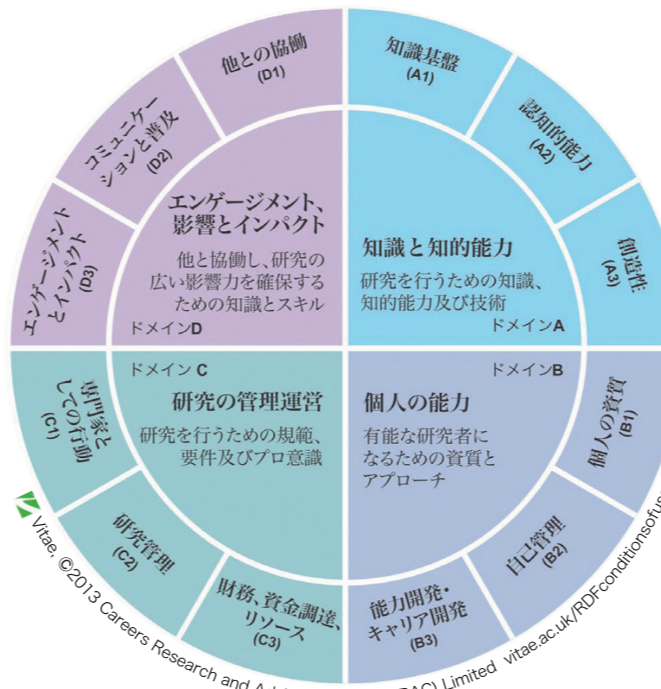
日本の生産年齢人口は、2030年に総人口の57.3%となり、OECD加盟国中最下位になります。この未来予想図の中で、質的な問題解決の一つの方策として博士人材の育成と輩出があります。博士人材には、高度な知識や卓越した能力を社会で活かす道が広がっています。博士の未来は明るい。そう確信して、博士人材支援室の活動を進めています。



室長  
研究・情報・  
都連携担当副学長  
総合研究推進機構長  
理学研究科・教授  
堀田 貴嗣  
HOTTA Takashi

## トランスファラブルスキルとは

専門を超えた広い視野、コミュニケーション能力、企画力、リーダーシップ能力、国際的に活躍するための英語力など、汎用性が高く、ビジネスなどに転用可能なスキルのことです。



英語オリジナル版: Published by Vitaae © 2021 The Careers Research and Advisory Centre (CRAC) Limited  
和訳版: © 2023 Japan Science and Technology Agency

### お問い合わせ先

## 博士人材支援室事務局

東京都立大学 南大沢キャンパス 8号館1階121号室

Mail: [soutsui\\_spring@jmj.tmu.ac.jp](mailto:soutsui_spring@jmj.tmu.ac.jp)

電話: 042-677-1111 (内線: 5676・5665・5682・5685)

URL: <https://research-miyacology.tmu.ac.jp/human-resources-support/>



# 博士後期課程 学生支援プロジェクト

# 博士後期課程学生への支援について

—東京都立大学 博士後期課程学生支援プロジェクト—

本学は、2023年度に『東京都立大学 研究力強化推進プロジェクト』をスタートさせ、「7つの戦略と21の取組」を策定しました。この中で、「博士後期課程学生支援」を掲げ、多様な博士人材への支援を大学全体として取り組んでいくことを宣言し、博士人材支援室を設置しました。

これらを受け、本学では博士後期課程進学者への経済的支援を進めています。現在実施している3つのプロジェクトでは、研究力強化のもと、研究環境の提供やキャリアパス支援を行っています。

プロジェクトの支援を通じて、学生たちが将来のキャリアパス展望を可視化できる環境を生み出し、本学の博士後期課程進学者が増加する好循環を実現することで、これからの博士人材に選ばれる研究大学となることを目指していきます。

## 支援メニュー

本学博士後期課程の学生向けに以下のプロジェクト支援を行っています。

### PROJECT 1

既存分野を超えた新たな視点(領域(アリーナ))を取り入れようとする人材に対する支援プロジェクト

#### 領域リフレーミング (Arena Reframing:AR) 双対型博士 人材育成プロジェクト

対象 全研究科 **18**名/年

研究奨励費 **240**万円/年

研究費 **30**万円/年

### PROJECT 2

特に次世代AI分野に特化した新たな視点(領域(アリーナ))を取り入れようとする人材に対する支援プロジェクト

#### 次世代AIを志向した 領域リフレーミング (Arena Reframing:AR) 双対型博士 人材育成プロジェクト

対象 全研究科 **3**名/年

研究奨励費 **330**万円/年

研究費 **60**万円/年

### PROJECT 3

独立行政法人日本学術振興会特別研究員への申請を促進することを目的とした支援プロジェクト

#### 博士研究力強化 支援プロジェクト

対象 全研究科 **10**名/年

奨学金 **180**万円/年

## PROJECT 1

### 領域リフレーミング(Arena Reframing:AR) 双対型博士人材育成プロジェクト

(科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム(**SPRING**)」)

#### 目的

本プロジェクトは、自身の専門分野を軸足に置きつつ、興味のフレームを複数方向に広げて研究領域を拡大し、新たな視点や考え方を取り入れることを志向する人材(「領域(アリーナ)」の創生を志向する人材)の育成を目的とします。

本プロジェクト採用学生には、経済的支援(生活費相当額)、研究費支援、及び以下のようなキャリア形成等支援を実施します。

#### メンタリング支援

様々な専門分野やバックグラウンドをもつメンターと面談を行い、研究に関する相談や、キャリアに関する相談を実施

#### キャリア支援

様々な博士人材(企業、官公庁、URA等)によるキャリア講演会、キャリアセミナーの実施 他

#### インターンシップ機会の提供

ジョブ型研究インターンシップ等の活用、マッチングイベントへの参加支援 他

#### 研究力強化の取組

学振特別研究員の申請支援、外部講師による書き方説明会、アカデミックライティング等セミナーの実施 他

#### トランスファラブルスキル習得支援

大学院共通キャリア科目「博士人材のアカデミック・コミュニケーション」、リレー講義「多視座涵養講座」の提供、採用学生による高校への出前講義の実施、異分野連携の促進(異分野交流マッチングイベント、リトリート式交流会、成果報告会等の実施)、アントレプレナーシップ関連の支援(相談窓口の設置、イベント実施など)

「トランスファラブルスキル」については裏面参照

#### 支援概要

対象研究科:全研究科  
(人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科、都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科)

採用予定人数:18名/年

採用期間:支援開始から標準修業年限までの最大3年間

経済的支援:研究奨励費(生活費相当額):年額240万円(月額20万円)\*雑所得

研究費支援:研究費:年額30万円  
※別途インセンティブ有

キャリア育成・コンテンツ等支援:メンタリング支援、キャリア支援、トランスファラブルスキル習得支援、インターンシップ機会の提供、等(上記参照)

## PROJECT 1、PROJECT 2 における

### 領域リフレーミング(Arena Reframing:AR)とは

従来の学問領域や分野の枠組みを独自の視点でとらえなおすことで、新しい視点や考え方を取り入れることを指します(主専門分野+多分野)。

## PROJECT 2

### 次世代AIを志向した

### 領域リフレーミング(Arena Reframing:AR) 双対型博士人材育成プロジェクト

(科学技術振興機構「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業次世代AI人材育成プログラム(博士後期課程学生支援)(**BOOST**)」)

#### 目的

本プロジェクトは、「領域(アリーナ)」の創生を志向する人材のうち、**強化分野として特に次世代AI分野へと方向を展開し**、新たな視点や考え方を取り入れることを志向する人材の育成を目的とします。

本プロジェクト採用学生には、経済的支援(生活費相当額)、研究費支援、及びキャリア形成等支援を実施します。

#### 支援概要

対象研究科:全研究科  
(人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科、都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科)

採用予定人数:3名/年

採用期間:支援開始から標準修業年限までの最大3年間

経済的支援:研究奨励費(生活費相当額):年額330万円(月額27.5万円)\*雑所得

研究費支援:研究費:年額60万円

キャリア育成・コンテンツ等支援:メンタリング支援、キャリア支援、トランスファラブルスキル習得支援、インターンシップ機会の提供、等

## PROJECT 3

### 博士研究力強化支援プロジェクト

(独自財源)

#### 目的

本プロジェクトは、独立行政法人日本学術振興会特別研究員への申請を促進することを目的とします。本プロジェクト採用学生には、直近の特別研究員に申請したことを要件とし、研究活動に専念し研究力向上を図ることができる環境を提供するための経済的支援(生活費相当額)を実施します。

#### 支援概要

対象研究科:全研究科  
(人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科、都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科)

採用予定人数:10名/年

採用期間:1年間(単年度)\*標準修業年限まで最大3回受給可

経済的支援:研究力強化支援奨学金(生活費相当額):年額180万円(月額15万円)\*奨学金

## 注意事項

- プロジェクト採用学生には、報告書の提出や面談、諸行事への参加などの履行義務等があります。
- 採用プロジェクトにより、税法上の区分が異なります。詳細は応募要領をご確認ください。